

## ☆講 演☆

- ◇助教授 山辺武郎 「イオンと電気化学」「イオン交換樹脂膜」日本塩学会・塩業組合中央会共催講習会，神奈川県立箱根観光会館において (1961.2.14~15)
- ◇助教授 野崎 弘 「脱チタン酸液よりバナジウムの捕集」「脱チタン酸液の迅速分析法」日本化学会年会講演，立教大学において (1961.4.1)

## ☆寄 稿☆

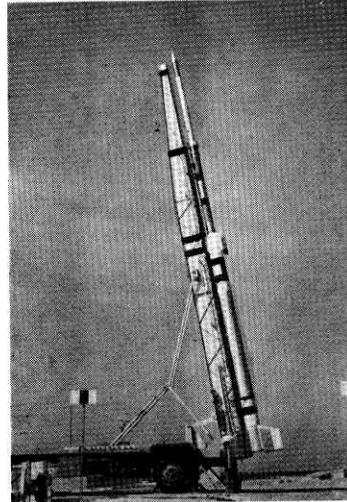
- ◇教授 高橋武雄，助手 白井ひで子 「交流ポーラログラフイーの研究 (6) マンニット・銅錯塩の溶存状態」工化，**64**，515-517 (1961.3)
- ◇助手 白井ひで子 「同上 (7) 数種支持塩中のニッケルの還元波」日化，**82**，339-343 (1961.3)
- ◇助教授 山辺武郎，助手 妹尾 学，技術員 高井信治 「イオン交換膜におけるアミノ酸の透過性」工化誌，**64**，556 (1961.3)

## ☆海外渡航状況☆

- ◇第4部 山本 寛教授は核燃料再処理調査団の団員として，4月6日出発，約2カ月間アメリカおよびヨーロッパ各国を視察調査の上帰国の予定である。

## ☆観測ロケットの飛しょう，K-8型およびL型☆

昭和35年度の最終実験として K-8-5,6号機と K-9L-1号機の飛しょう実験が計画された。K-8-5号機は，昭和36年3月27日に飛しょうし，電離層観測（電子密度，電子温度，イオン密度）と大気光観測装置の機能試験が行なわれ，高度170kmまでの観測と実験を行なった。K-8-6号機は4月中旬の世界ロケット週間に実験の予定である。



カッパ9L型ロケット

K-9L-1号機は，第1ブースタ420，第2ブースタ245，メイン150Lのわが国最初の3段ロケットで，4月1日に実験し，計器10kgを積んで高度約350kmに達した。

## 筆 者 紹 介

- ◇田 宮 真 助教授 工博 専攻 船体運動学
- ◇安 藤 良 夫 助教授 専攻 溶接工学
- ◇藤 村 理 人 日本原子力東海研究所
- ◇本 間 禎 一 助手 専攻 放射線工学
- ◇一 色 貞 文 教授 工博 応用X線工学
- ◇高 橋 幸 伯 助教授 専攻 船体構造学
- ◇長谷川 功 三 技官 専攻 同上
- ◇内 山 厚 克 技術員 専攻 同上

- ◇大 井 光 四 郎 助教授 専攻 材料力学
- ◇浅 野 六 郎 技官 専攻 同上
- ◇小 倉 公 達 技官 専攻 同上
- ◇岡 本 舜 三 教授 工博 専攻 構造力学
- ◇加 藤 勝 行 技官 専攻 同上
- ◇伯 野 元 彦 助手 専攻 同上
- ◇宮 越 義 暉 関西電力株式会社

出版委員	委 員	植村 恒義	委 員	野崎 弘	専門委員	星野 昌一
出版委員長 関野 克		*安達 芳夫		原 善四郎		齋藤 成文
委 員 小瀬 輝次		齋藤 成文		田中 尚		森 大吉郎
		浜崎 襄二		三木五三郎	編 集 室	下村潤二郎
		河添邦太郎				水野 晴明
*安藤 良夫						
石原 智男						

(\* 印 当番委員)

第13巻 第4号

生 産 研 究

(本誌は生産技術研究所の研究紀  
介誌として，毎月1回発行する)

1961年4月1日発行

印刷所

三美印刷株式会社  
東京都千代田区神田多町2の7

頒価 60円

編集者

関 野 克

発行所

東京大学生産技術研究所  
千葉市弥生町1  
電話千葉(2)0261(代表)

発行者

藤 高 周 平